主要科目　人間生活学部　健康栄養学科

| 科目名 | 概要 |
| --- | --- |
| 解剖生理学(解剖学を含む) | 人体の構造と機能について学ぶ。解剖学的内容に生理学的内容を加味した内容であるのが特徴である。この科目の知識を習得しないと、医学系、および看護学などの医療系、栄養系、体育系などの次の段階に進めないほど重要な科目である。 |
| 解剖生理学実験 | 机上では理解しがたい事項について実験を通じて修得する。解剖生理学講義で学んだ人体の構造と機能に関する知識を検証し、より深く理解する。 |
| 食品学Ⅰ | 「食品学Ⅰ」では、食品を科学的に理解するため、食品に含まれる主要成分である水、炭水化物、脂質、たんぱく質、無機質、ビタミン、さらに食品を特徴づける味、香り、色などの嗜好成分、調理・保存による化学変化などに関する基本的知識を修得する。 |
| 食品学Ⅱ | 植物性食品(穀類・イモ類・豆類・野菜類・果実類等)および動物性食品(肉類・魚介類・乳類・卵類等)について、それらの分類や各食品の概要、特徴、成分組成、さらにその加工特性などを学ぶ。 |
| 食品学実験 | 化学実験に必要な基礎技術・知識を学びながら、食品中の成分の定性や定量などを行い、食品の性質や分析方法についての基礎的知識を修得する。また、食品成分表や加工食品の栄養成分表示などに関する理解を深める。 |
| 食品衛生学 | 食中毒の原因となる微生物や化学物質による汚染を理解する。また、食品の安全性を脅かす有害物質、適正な食品添加物の使用、食品の安全性を確保する方法並びに食品の安全性に関わる食品衛生行政と法規を学ぶ。 |
| 基礎栄養学I | 本科目では、まず栄養の概念およびその意義について解説する。さらに三大栄養素の消化・吸収・代謝と栄養学的機能について学ぶことにより、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割について理解する。 |
| 基礎栄養学Ⅱ | 基礎栄養学Ⅰに引き続き、本科目ではビタミン、ミネラルの消化・吸収・代謝と栄養学的機能、エネルギー代謝について学ぶ。健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割について理解を深め、栄養士として必要な栄養学の基礎知識を学修する。 |
| 基礎栄養学実験 | 基本的な化学実験の知識と技術を習得し、タンパク質・糖質・脂質の化学的特性および栄養学的特性や消化酵素のはたらきについて理解を深める。 |

| 科目名 | 概要 |
| --- | --- |
| 調理学 | 食べ物を栄養的に優れ、おいしく安全に調理するために必要な食品材料や調理操作（特に加熱）に関する知識、調理により生じる食品材料の栄養素・呈味成分・機能性成分の変化や物性の変化、望ましい食事設計のしかたを解説する。グループワークを取り入れながら調理学の専門用語の学びを深める。 |
| 基礎調理学実習I | 栄養士として食品の栄養的・衛生的・嗜好的特性を理解した上で、健康でおいしい食事を提供するために必要な調理操作の基礎的な知識と技術を身につける。日本料理、西洋料理、中国料理の日常献立について食材の選び方や扱い方、基本的な調理操作や調味のしかた、盛りつけ方、テーブルセッティングや食事作法について学ぶ。 |
| 基礎調理学実習Ⅱ | 「基礎調理学実習Ⅰ」と同様、日本料理、西洋料理、中国料理の日常的献立について食材の選び方や扱い方、基本的な調理方法、テーブルセッティングなどについて学ぶとともに、季節にふさわしい食材を使った行事食や供応食などの調理方法や食卓のととのえ方、各地域の食文化について解説する。 |
| 健康・運動・栄養の科学 | 子どもから高齢者、スポーツアスリートにおけるウエルネスの実際や公衆衛生学的な視点からウエルネスの在り方について学ぶ。 |
| スポーツ実技・指導法Ａ<br>（体つくり運動・体操） | 児童から高齢者までを対象とした健康づくり運動と、健康づくり運動に対する知識と技術を習得し、年齢・体力・健康状態などの個人差を配慮して対象者に応じた安全で効果的な運動プログラムの計画法を習得する。 |
| 食文化概論 | 食文化は自然環境および社会・文化（政治・経済・宗教など）の影響により形成される。本講義では、各地域の食文化の成り立ちについて概説する。食具や食事作法、行事と食の関係については、地域間比較する。食が環境に与える影響については問題提起し、これからの食のあり方について考察する。 |
| 食文化と健康 | 食文化と健康との関連について、総合的に理解できるよう教員2名が各専門分野から概説する。<br>4年間の食文化コースでの幅広い学修内容に繋がる授業展開とする。 |
| 日本と世界の食文化 | 日本の食文化の変遷を時代の流れにし従って概説する。世界の食文化では、主にアジアとヨーロッパ各国の食文化の特徴について概説し、地域、民族、宗教などによって多彩な面をみせる食の多様性を理解する日本の食文化ならびに他民族や地域の伝統を尊重する態度を養い、食文化の維持・継承、共存のあり方を考える。 |

主要科目　人間生活学部　食物栄養学科

| 科目名 | 概要 |
|---|---|
| 公衆衛生学 | 地域や国レベルでの健康増進と疾病予防を目指す公衆衛生に関する政策や活動について理解する。 |
| 公衆衛生学実験 | 地域や国レベルでの健康増進と疾病予防を目指す公衆衛生に関する実験について理解する。 |
| 社会福祉概論 | 社会の健康づくりへの貢献のために、日本国憲法第25条に謳われた、生存権保障を目的とする社会保障・社会福祉を理解することは、不可欠である。そのために、以下の項目を学ぶ科目である。<br>1.　社会保障・社会福祉の、理念・歴史・制度・関係者。<br>2.　医療保障・介護保障・所得保障などの仕組み。<br>3.　高齢者・障がい者・児童家庭を対象とする社会福祉サービス。 |
| 解剖生理学 | 正常な人体の構造（つくり）や機能（はたらき）について、細胞、組織、血液、循環、呼吸、消化器、運動系、泌尿器、内分泌、生殖、神経系の各分野に分類し、各部の名称や構造と機能、および人体の恒常性の維持について理解する。また、これらの構成単位の知識に基づいて、がんや難病などをはじめとした、心理に関する支援が必要な様々な疾病についての理解を深める。 |
| 人間生物化学 | 三大栄養素の構造、代謝について学ぶ。また、酵素、生体エネルギーなどの基礎知識について学ぶ。 |
| 食物栄養学概論 | 食事の意義と生命活動との関連性、管理栄養士の役割について学修する。また、国民の健康の維持・増進、生活習慣病の発症・重症化予防を目的に策定されている日本人の食事摂取基準の策定と活用のポイントを学修する。 |
| 食品学Ⅰ | 栄養と健康にかかわる食品の役割、食品の一次機能(栄養機能)、二次機能(嗜好機能)や三次機能(生体調節機能)について基礎知識を得る。また、食品成分の変化や食品の物性や食品の表示についても理解を深める。 |
| 食品学Ⅱ | 植物性食品、動物性食品、その他の食品（油脂、甘味料、調味料、香辛料、嗜好飲料等）の分類や特性について学習する。 |
| 食品化学実験 | 化学・生化学実験に必要な基礎技術・知識を学びながら、食品の水分、たんぱく質、脂質、灰分の一般分析を行う。また、たんぱく質および脂質の特性分析、食品の色素成分の分析や酵素免疫測定法（ELISA）による基本実験を行う。理解度を確認するため、レポート作成を行う。 |

| 科目名 | 概要 |
| --- | --- |
| 調理学 | 調理学は、調理操作論だけでなく、食事設定、調理による物理・化学的変化、食味論や食文化まで内容に含まれる。本講義では、おいしさを形成する要因について学び、調理操作や調理過程で生じる素材の変化について、物理・化学的観点、栄養学的観点から理解する。 |
| 調理学実習Ⅰ | 日本料理、西洋料理、中国料理の日常的献立について、食材の選び方、扱い方、基本的な調理操作や調味のしかた、盛り付け方やテーブルセッティングについて学ぶ。 |
| 調理学実習Ⅱ | 「調理学実習Ⅰ」を踏まえ、「調理学実習Ⅱ」では、日常的献立について、様々な食材や調理器具における取り扱いを学びながら、調理法を基礎から応用へと発展させる能力を養い、<br>「調理学実習Ⅲ」につながる理論的な調理技能を修得する。また、一般的な調理以外に行事食や郷土料理などを取り入れて食文化の知識を深めることができる。 |
| 食品衛生学 | 食品衛生行政と法規、食品に関連する微生物、食中毒（原因別に細菌性、ウイルス性、化学物質、自然毒に分けて概説）、食品の安全性を脅かす種々の物質、食品添加物、寄生虫について講義する。 |
| 基礎栄養学 | 栄養の概念および意義について学ぶ。また、栄養素の構造、機能、消化・吸収、生理作用について理解を深め、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を修得する。 |
| 栄養学 | 「基礎栄養学」で学んだ三大栄養素の内容を踏まえ、ビタミン、ミネラル、水・電解質の栄養学的役割、およびエネルギー代謝について学ぶ。また、栄養素の構造、機能、消化・吸収、生理作用について理解を深め、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を修得する。 |
| 基礎栄養学実験 | 基礎栄養学実験では、基本的な実験操作により、タンパク質、糖質、脂質等の栄養素の化学的特性と栄養学的特性、また酵素による体内の消化・吸収・代謝について理解する。 |
| 人間栄養学概論 | 人の栄養の有り方は、日常的なので簡単に見えるが、実は非常に複雑である。人に親切にすると、感謝をする人、放っておいてくれと有難迷惑に思う人、様々である。人の栄養学も、人の心のように複雑である。最後には、自分で解決する力をもたなくてはならないであろう。人の栄養学は、どうあるべきかについて考える糸口となることを目指したい。 |

主要科目　人間生活学部　食品開発学科

| 科目名 | 概要 |
|---|---|
| 食品成分の化学 | 食品を構成している水分、栄養成分、嗜好成分の基礎的知識、ならびに、食品成分の変化について学習する。 |
| 食品の特性 | 植物性食品、動物性食品、油脂食品、その他の食品（甘味料、調味料、香辛料、嗜好飲料等）の分類や成分、特性について学習する。 |
| 食品科学実験Ⅰ | 食品の主要成分を中心に、食品の性質を実験で確認すると共に、化学実験に必要な基礎知識・技術を学ぶ。 |
| 食品科学実験Ⅱ | 「食品成分の化学」「食品の特性」「食品科学実験Ⅰ」において履修した内容について、実験を通してその理解をさらに深める。食品の一般成分である水分、灰分、たんぱく質、脂質、ビタミンなどの定量分析を行い、各食品成分の定量分析の手法および原理を知る。また、基本的な分析器具や機器の取り扱いについても修得する。 |
| 統計学演習Ⅰ | 著しく専門的な統計学に偏ることなく、世界で起きる出来事を数量的に適切に把握していく。また、個々の事象の発生を確率的にとらえ、その集合として全体の統計事象を理解する。統計事象の過程を科学的に認識し、自ら作業することで興味をもって数量的認識を使いこなす能力を養う。 |
| 基礎化学 | 高校化学の振り返りから徐々に詳細な内容へと発展させる。原子・分子の構造、元素の種類や性質、化学結合と物質の構造や性質、酸と塩基、酸化と還元、化学反応とエネルギー、物質の状態変化など、物理化学と無機化学を中心に学ぶ。 |
| 有機化学 | 高校化学の振り返りから徐々に詳細な内容へと発展させる。有機化合物の分類、構造と化学結合、命名法、官能基の種類と性質、身近な天然有機化合物に関する基礎的な事項を中心に学ぶ。 |
| 基礎微生物学 | 生活環境の中には多くの微生物が存在し、ヒトの生活に密接にかかわっている。最近は、微生物を利用して食品や医薬品、化粧品などの有用物質を生産する技術も次々と開発され、われわれの生活にますます欠かせないものとなっている。本科目は、これらを理解するために微生物の基本的知識：微生物の分類、細胞の構造と機能、代謝生理、増殖とその制御などについて解説する。 |

| 科目名 | 概要 |
| --- | --- |
| 動物・植物生理学 | 動物性・植物性食品の特性を知るために、動物・植物の基本的生理機能を理解することが目的である。本科目では、動物細胞と植物細胞の構造と機能の相違を学んだうえで、動物における内分泌系、神経系、感覚器、免疫などや、植物における光合成や呼吸、植物ホルモンの働き、代謝など、それぞれが恒常性を維持するための生命活動について解説する。 |
| 食品開発学概論 | 各種食品の開発事例から、食品開発の意義、ニーズの把握方法、食品のコンセプト作り、試作、製造、評価、検証方法、コスト管理や販売促進方法など食品開発に必要な基礎知識を習得するとともに、成功事例について成功要因の分析、考察を行う。 |
| おいしさの調理学 | 安全で栄養面でも優れ、おいしい食品（食べ物）にするためには、食材や調理操作に関する基礎知識、調理過程で生じる食材の変化を知る必要がある。これらについて物理的及び化学的、栄養学的観点から解説する。また、望ましい食事設計、献立作成の基本についても学修する。 |
| 食品開発基礎実習Ⅰ | 「おいしさの調理学」での理論的な知識を基に、食材や基本的な調理器具の扱い方、食品調理における非加熱操作、加熱操作に関する基礎的事項、盛り付け方、テーブルセッティングや食事作法について実践的に学ぶ。また、季節にふさわしい食材を使った調理方法についての知識や技術を修得する。 |
| 食品衛生学 | 食品衛生は、食品の生産から消費に至るあらゆる過程において重要である。食の安全・安心について議論し、保健機能食品の制度や食品表示についてなど実用的な側面まで情報を得る。食品衛生に関する法的根拠、食品の生産環境、食中毒、感染症、食品の汚染物質、包装材、食品添加物、HACCPなどの衛生管理、輸入食品の監視などについての基礎知識を学び、食品開発を行う上で重要な食品衛生の知識を習得する。 |
| 栄養生理学 | 栄養の基本的概念と意義、食物の消化・吸収と排泄について学ぶ。さらに食品に含まれる様々な栄養素について、その化学構造、機能、消化吸収、生理作用、生体における必要量などについて学び、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養素の役割を理解する。 |
| 生化学 | 生体内における栄養素の役割と代謝、エネルギー産生機構、および生体機能の調節機構についてを学ぶ。 |

主要科目　人間生活学部　人間福祉学科

| 科目名 | 概要 |
|---|---|
| 高齢者に対する支援と介護保険制度 | 高齢期と一概にいってもその時間的な幅は大きく、各々の心身機能や生活環境も様々である。本科目では、高齢期の生活に対する理解、高齢者の生活を支援する制度に関する基礎知識をもとに、地域ケアにおける高齢者の生活支援・介護・福祉に関する概念や仕組み等を学ぶ。 |
| 子ども家庭福祉論 | 児童家庭福祉の歴史的変遷、現状と課題、動向と展望のほか、児童の権利や発達を保障するための児童福祉の仕組み、諸制度、援助の方法など、専門職として必要となる児童福祉に関する内容が体系的に学べるように進めていく。また、福祉施設での実習も念頭に置き、現場で役立つ知識の習得を目指す。 |
| 障害者福祉論 | 障害者福祉の基本理念、障害のある人の生活とそれを取りまく社会情勢や福祉需要について学んでいく。これまでの障害者福祉制度の発展過程や相談援助活動において必要となる法制度、専門職を理解し、福祉の専門職としての適切な支援のあり方を学ぶ。 |
| 社会的養護Ⅰ | 児童福祉施設に自立支援という新たな機能や役割が求められているという動向を踏まえ、現代社会における家庭や子育てを巡る現状と課題、児童養護の体系、歴史、政策、原理等、社会的養護に関する基本的事項について、理解することを目指す。 |
| ソーシャルワーク論Ⅲ | ソーシャルワークの理論と方法について学習する。社会福祉士受験資格取得のための指定科目でもあるソーシャルワークにおける専門的援助関係の特性について理解する。ソーシャルワーク過程について理解する。 |
| 公的扶助論 | 公的扶助（生活保護）は社会保障制度の重要な柱のひとつで、「健康で文化的な最低限度の生活」を保障する最後のセーフティネットと言われるものである。生存権保障としての生活保護制度、その歴史、理念・原則、仕組みと運用、自立を支援する具体的方法を中心に順次学んでいく。 |
| 介護福祉論Ⅱ | １．「尊厳を支える介護」、２．「自立に向けた介護」３．「介護を必要とする人の理解」４．「介護従事者の倫理（職業倫理、利用者の人権と介護、プライバシーの保護)」、について学習する。 |
| 生活支援技術概論 | 介護とは、介護福祉士の理念に基づき、日常生活を営むのに支障がある者への支援（＝日常生活支援）を意味している。介護を必要とする人々の日常生活の自立を促し、個々に応じた安全で安楽な基本的介護技術を実践するに必要となる基本的知識を身に付ける。 |

| 科目名 | 概要 |
| --- | --- |
| 医療を必要とする人への介護Ⅱ | 医療的ケアの意義・目的を理解したうえで、医療的ケアの基礎的知識を学ぶ |
| 保育内容の理解と方法Ⅴ（表現） | 領域「表現」において、様々な子どもの表現や、感性・創造性を豊かにするための活動や環境、援助方法等を実践的に学ぶ。 |
| 乳児保育Ⅰ | 0・1・2歳児の日常生活を理解するための知識や方法の基本を学ぶ。現在において0・1・2歳児にとってふさわしいと環境とはどのようなものかを追求しつつ、「0・1・2歳児の最善の利益」とは何なのかを考え、日々保育実践をする保育者がいる。この授業では、現代の子育て事情を理解しながら「乳児が乳児として生活する」ことを目指し、蓄積されている具体的な0・1・2歳児の保育の内容や方法について、事例から検討を進める。 |
| 子育て支援Ⅰ | 保育士の法定業務としての「保育指導」の具体的方法を学ぶ科目であり、日常保育と一体的に展開される保育指導の特性を踏まえ、保育の専門性を基盤とした子育て支援の意義や方法、活用技術等について具体的に学ぶ。 |
| 行政福祉総論 | 行政福祉の現状を理解する。行政福祉の課題を理解する。行政福祉の課題の解決方法を、小論文の作成により理解し表現する。 |
| 人間福祉基礎演習 | 今後の大学生活の目標を明確にするため。e-ポートフォリオの活用による教員とのメンタリング(基本的なコミュニケーションを通じた自由な対話)を行う。社会福祉分野の課題を明らかにするための調査の基本を学び、調査を行い、それらをまとめて報告会を行う。3年時に履修「人間福祉演習」のゼミ説明会を行う。 |
| 人間福祉演習 | 人間福祉及びそれに関連する領域における学問的テーマを、より専門的に学習していく。卒業研究のテーマ設定に向けて、学生個々の興味関心を広げ深めていくよう指導する。また適切で具体的な研究方法について習得し理解を深めていく。本授業は少人数での演習形式で行う。課題によっては実践現場訪問、調査、フィールドワーク等学外活動を実施する。学生は自己主導的な学習(self directed learning)の中で、自身の問題意識や研究テーマを明確にしていくことが求められる。また他者の研究テーマや視点に関心をもち、相互に援助できる関係を築く。 |

主要科目　教育人文学部　幼児教育学科

| 科目名 | 概要 |
| --- | --- |
| 幼児教育学 | 幼児教育・保育にかかわる専門的知識を習得する科目である。幼児教育・保育の歴史と思想、保育方法の概略、乳幼児の生活実態を理解し、それを踏まえた保育、子育て支援、育児相談等の保育者の多様な責務について理解する。保育実践者としての自己のあり方やこれからの学び方について考える。 |
| 保育者論 | 保育者についての関係法令を知り、保育者の仕事内容や責務を理解する。さらに保育者の協働、保護者や地域、専門機関との連携など、専門性を高め学び続ける保育者の在り方を学び、保育という仕事、保育者について具体的にイメージし、保育者としての基本的な姿勢を学ぶ。 |
| 保育制度・保育政策論 | 法令などと関連付けながら、幼児教育・保育制度の成り立ち、及び現状についての知識を得る。また、保育実践における具体的な事例に基づき、制度の仕組みや課題について深く考察する |
| 子ども家庭福祉Ⅰ | 現代の子どもの育つ環境の実態について子ども家庭福祉の視点から具体的に学ぶことを通し、保育者としての子ども家庭福祉への見識を養うことを目指す。児童の権利に関する条約や子どもの権利擁護、保育者の専門性と役割について理解を深める。 |
| 社会福祉 | 社会福祉の意義、歴史、動向・課題を概観し、社会福祉と児童の人権や子ども家庭福祉における支援の視点、関連性について理解する。そして社会福祉の対象、制度、援助、利用者保護の仕組み等について基本的知識を得て、課題を考察できることを目的とする。 |
| 子ども家庭支援論 | 子育てを取り巻く昨今の社会的状況の変化を踏まえ、子育てや家族・家庭の現状を知ると共に、現代社会で求められている子ども家庭支援について考えを深めることを目指す。 |
| 保育・教育心理学 | 発達という概念について理解を深め、人間の一生の中の最初期である乳幼児期とから児童期、青年期の各時期における心身の発達の過程と特徴、具体的には運動、言語、認知及び社会性等の特徴についての基礎的な知識を理解することを目指す。理解する。そして、発達や学習の過程、生涯発達の観点から考えた障がいについても理解を深める。また、子どもが人との相互的かかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。 |
| 子どもの理解と援助 | 多角的・総合的に子どもを理解し、その理解を土台として援助を展開する保育者の基本的姿勢を学ぶ。他者や環境との関係性にも着目しながら、広い視野で実践的に子どもを理解していくプロセスを学修する |
| 特別支援教育概論 | 障碍のある子どもを理解し、支援方法について学ぶ。特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法について学ぶ。障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応について学ぶ。 |

| 科目名 | 概要 |
| --- | --- |
| 子どもと健康 | 幼稚園、認定こども園、保育園における生活の様子や遊んでいる子どもの姿を映像資料や事例等から捉え、領域「健康」のねらいと照らして学習する。 |
| 子どもと言葉 | 領域「言葉」の指導の基盤となる、乳幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身に付ける。言葉の意義と機能について理解した上で、言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにすることに関する知識を身に付ける。 |
| 保育内容総論 | 幼児教育・保育における指導や保育の総合的な考え方を理解し、実践に必要な基本的な知識・技能を身に付ける。 |
| 乳児保育Ⅰ | 乳児保育の意義と歴史的変遷及び役割を学び、現代の乳児保育の場における現状と課題を理解する。また、3歳未満児の成長・発達を踏まえた保育の内容を理解する。 |
| 感じて表現・考えて表現 | 自らの感覚を駆使して感じ考え表現することは人間のあり方の根幹に関わる。そうした表現を乳児・幼児・児童期に保障していく保育者となるために、学習者が自身の感性や意欲を高め保育における表現を学ぶための素地を実践と講義を通して準備していく。 |
| ネイチャー・ワーク | キャンパス内の自然を活用して、視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚を中心に体中の感覚器官を相互的に発揮させて行動する。自然との対話を基軸にして自己を見つめ、開放し、活性化していくことが目的である。身体感覚はもちろん様々な感覚器官が既成概念を乗り越えていく営みの体験が乳幼児のそれと共鳴できる基盤を醸成する。 |
| 児童学演習 | 本学が立地する新座市において、子どもが育つ保育所、幼稚園に体験学習として出向き、現代社会での保育・育児及び子どもの実態を知り、地域においても学修する。体験学習の事前・事後指導において、他の専門科目を通した学び等を踏まえ、保育に関する現代的課題についても探求する。自ら関わりつつ子どもから学ぶ姿勢を獲得し、今後の実習につなげる。 |
| 幼児教育基礎実習 | 本学附属幼稚園を含む保育実践の場（幼保連携型認定こども園・特別支援学校を含む）における実習を延べ7日程度行う。3年次以降の幼稚園教諭及び保育士資格取得のための実習の基礎として、保育者としての適切な思考・判断・表現を実習の中で試みる。 |
| 保育学 | 保育を構造化してとらえ、その中での保育者の役割についても検討する。事例研究を活用し、子どもの遊びの世界の面白さ、深さに触れることも大切にしたい。 |

主要科目　教育人文学部　児童教育学科

| 科目名 | 概要 |
| --- | --- |
| 初等国語科教育 | 小学校学習指導要領に基づき，「国語科」の目標と内容について理解する。〔知識及び技能〕の内容と関連を図りつつ，〔思考力、判断力、表現力等〕の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域について，指導内容と活動とを結び付けて学び、学習指導略案を作成する。 |
| 初等算数科教育 | 小学校算数科の学びの基本や、その内容や方法を、「数と計算」[図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の５領域で考察していく。児童の主体的な学びを促す指導法の在り方を理解し、教材の内容の分析、指導法の工夫等で優れた実践を参考に、指導計画と1時間の指導案を作成し、模擬授業を通して実際の授業の在り方を考える。 |
| 初等理科教育 | 理科教育の①目的、②内容、③方法、④評価の４領域をもって構成する。これら4領域を中心としながら、学生自らが学習指導案や教材を用意し、模擬授業を行うとともに、研究協議を実施する。学生自身が理科の学習内容に親しみ、科学する心を高め、指導技術を身に付けることを目指す。 |
| 初等社会科教育 | 小学校教諭免許取得のための教科指導法を学ぶ講座の１つである。学習指導要領に示されるねらいに従い、各学年の指導内容に示された事項をどのような教材や指導方法によって学ばせるのか等、その指導法全般について学修する科目である。 |
| 初等英語科教育 | 小学校学習指導要領に基づき、「外国語活動」及び「外国語（英語）」の目標と内容について理解するとともに、模擬授業を通して教材研究、学習指導案の作成、授業指導、評価等の実践的指導力の育成を図る。 |
| 教育学概論Ａ | これから４年間にわたって教職科目を受講していく、もっとも最初の1年生前期に「教育の基礎を学ぶ科目」として開講する。講義では、「教育とは何か」、「学校とは何か」、「教える・学ぶとはどういうことなのか」などの根源的な12の課題について学ぶ。 |
| 学校制度論Ａ | 教育制度の基本原理、教育行政制度の歴史的変遷についての理解を深め、教育基本法改正の意義について考える。さらに新教育基本法ならびに主要な教育関連法規に関わる諸問題について、具体的判例に基づいて学ぶ。 |
| 教育心理学Ａ | 小学校教諭課程の初学者を主な対象として、学習の過程、および児童生徒の心身の発達について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。また、特別な支援を必要とする児童生徒の理解と指導についても扱う。 |

| 科目名 | 概要 |
| --- | --- |
| 特別な教育的ニーズの理解と支援Ａ | 特別支援学校教育の現状等の概要について理解するとともに、特別支援教育の場やインクルーシブ教育システムの意義、特別支援教育の対象となる障害の特性等ついて学修する。 |
| 教育課程論Ａ | 小学校教員を目指す1年生が後期に受講し、これから学ぶ各教科（国語・算数など）、領域（総合的な学習の時間・特別活動など）等の指導法に関する科目がそれぞれどのように影響し合い、子どもたちの学習経験を実際に創りあげていくのかを考えることになる。 |
| 道徳教育Ａ | 「特別の教科　道徳」について、成立に至った経緯やその内容、全教育活動を通じて行う道徳教育とその要となる「特別の教科　道徳」（道徳科）の本質について理解を深める。特に、道徳科の内容項目や道徳的価値、児童の実態把握、教材の活用を踏まえて授業を構想し、模擬授業を行う中で、道徳科の指導の仕方を学ぶ。 |
| 教育方法Ａ（ICT活用を含む） | 教師が身に付けている方法や技術はきわめて重要であると考え、その原理や原則について追究するものである。 |
| 教育相談Ａ | 小学校教員を目指す1年生が後期に受講し、これから学ぶ各教科（国語・算数など）、領域（総合的な学習の時間・特別活動など）等の指導法に関する科目がそれぞれどのように影響し合い、子どもたちの学習経験を実際に創りあげていくのかを考えることになる。 |
| 特別支援教育指導法 | LD・AD/HD・ASD等の障害特性及び認知特性についてより具体的に学ぶとともに、適切かつ効果的な指導法を身に付け、個々の教育的ニーズに応えることができるような資質・能力を養う。授業では、疑似体験等を通して児童生徒の辛さを体験した上で、実際の授業に活かせるようなアセスメント、個別の指導計画の作成、支援方法、関係機関との連携等について実践的に学ぶ。 |
| 卒業研究 | 自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料・文献の収集を行い、整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。7月に途中経過報告。10月に第一次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進度の目安を持って進めるものとする。 |

主要科目　教育人文学部　心理学科

| 科目名 | 概要 |
| --- | --- |
| 心理学概論 | 前半は「脳と心」をテーマに、心理学的現象に関する映像やデモの視聴、簡易的な実験の実施などを通して、人間の知覚・認知、発達に関する特徴、及び、その現象が起きるメカニズムについて体験的に理解する。後半は「心と適応」をテーマに、コミュニケーション場面や対人場面における自己分析ワークなどを通して、人間の思考や推論に関する特徴、及び、社会における人間の適応・不適応のメカニズムを実践的に学ぶ。 |
| 知覚・認知心理学 | 人間の情報処理のプロセス（感覚・知覚、人間の記憶や注意、思考などの認知機能）について、心理学的なモデルや理論を平易に解説する。映像や簡易実験などを用いて、体験的理解を促すと同時に、科学的視点を養う。 |
| 心理学統計法 | 最初に、記述統計学と呼ばれるデータ集計の基礎を学習する。計算式の解説よりも、具体的データを実際に集計することで、統計用語や手法に親しむ。次に、推測統計を学習する。実験計画法に基づいて測定されたデータに対する統計的仮説検定の手順について、具体的なデータの分析を通して習得する。 |
| 心理学実験 | 受講生は少人数のグループに分かれて、心理学の実験に参加する。授業開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて分析し、各自が実験レポート作成を行う。心理学実験で行う実習は5課題であり、5課題についてレポートを作成する。 |
| 心理アセスメント入門 | （1）心理アセスメントの作られ方、実際の用い方、使用上の注意点などについて理解する。（2）実際に使用する器具や道具を用いながら、実際に各アセスメントの実施方法を学ぶ。また、アセスメント結果について、整理の仕方や返却の注意点などについても学んでいく。なお、進行や内容は扱うアセスメントによって異なるので、担当の教員の指示にしたがうこと。 |
| 心理学研究法 | 心理学の方法としてよく用いられる、1)調査・質問紙法、2)実験、3)観察について解説する。主に卒業研究を例にとり、これらの研究が「何を知りたくて仮説をたて、何を測り、いかに解析したか」の過程を実例から追う。毎回授業後に、短いエッセイの提出を求め、次回の授業で優れたエッセイを紹介し、復習と更なる学びの材料とする。 |

| 科目名 | 概要 |
| --- | --- |
| 専門ゼミナール | 人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基本的文献の購読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。 |
| 発達心理学概論（発達心理学） | 発達心理学とは、人間の生涯にわたる発達の過程と要因を探るものである。本講義では、人の発達をどのように捉えるのかに関して、発達心理学における基礎的な理論や方法論を取り上げる。また、一生を通じて起こる発達の過程を胎児期から高齢期まで発達段階ごとに概観し、各段階において課題となる発達の諸側面について学ぶ。 |
| 教育相談（教育・学校心理学） | 教育相談の理論や技法に関する基礎的知識について、事例も交えて具体的・体系的・総合的に学ぶ。また、児童生徒から相談をうけた際に身につけておくべき基礎知識を解説し、個々の児童生徒の状況を把握し評価するための知識や方法についても学ぶ。 |
| 健康相談活動 | 「学校保健」「養護概説」で学んだ健康相談に関する答申や法律、養護教諭の職務の特質、健康相談のプロセス等を再度確認する。その上で養護教諭として子どもの行動や健康状態に対する観察やアセスメントの視点、対応方法を演習に取り入れながら学習する。さらに、学級担任や保護者との連携方法も演習を取り入れながら具体的に学習をする。 |
| 臨床心理学概論 | 臨床心理学の概要を理解するため、まず臨床心理学の定義・理念・体系を知り、世界や日本で臨床心理学がどのように発展してきたのかを学ぶ。次に、精神分析や行動療法など、臨床心理学における代表的な理論・心理学的支援法について学ぶ。さらに臨床心理学をどのように実践に役立てるのかを学ぶため、主な精神疾患や見立て・ケースフォーミュレーションに関する基礎知識を身に付ける。 |
| 社会心理学概論（社会・集団・家族心理学） | 社会心理学の「社会」とは他者がいる状況を意味する。私たちの日常生活は、ほとんどが他者のいる状況だといえる。したがって社会心理学は、日常生活の中で私たちが他者から受ける影響や逆に他者に与える影響を問題とし、そこに潜む法則性を明らかにしていく心理学の一領域ということができる。本講義では、社会心理学の研究成果について日常的な現象と結びつけながら、わかりやすく解説する。 |
| 学校保健Ⅰ | 学校教員における学校保健の意義、学校保健の仕組みや基礎的事項について理解することを目指す。学校保健において重要な役割を持つ養護教諭の活動について重点をおく。 |

| 科目名 | 概要 |
| --- | --- |
| 看護学概論 | 看護の本質、その対象、役割・機能及び看護の対象に働きかけるうえでの倫理的側面を中心に学ぶを深める。看護の対象、看護が提供される場について、事前・事後学習ならびにグループディスカッションを通して理解を深める。 |
| 卒業研究 | ４年間の学業の集大成として、卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。具体的には、これまでの講義で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通して深めていく。担当教員の指導を受けながら、１年をかけて、問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することが求められる。 |

主要科目　教育人文学部　文芸文化学科

| 科目名 | 概要 |
|---|---|
| 日本語基礎 | 日本語検定3級相当の知識を得ることを目標に、敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字の6領域について幅広く学ぶ。単に日本語の知識を得るだけではなく、正答である理由、誤答である理由を考え、説明できるようにする。 |
| 日本語表現Ⅰ | 相手に伝わる文章、論理的な文章の工夫を理解する。授業中に課される各種課題（自己ＰＲ文、意見文、報告文など）に随時取り組み、添削を受けることで、文章を執筆するうえでの基本的なスキルを身につける。 |
| 日本語表現Ⅱ | 本格的なレポート・論文を執筆するための方法を学ぶ。研究分野の異なりによらない執筆の基本を学んだ後、各自の関心にそって研究課題を設定、実際にレポート・論文を作成してみる。 |
| 日本語表現Ⅲ | 就職活動で必要な日本語力を実践的に鍛える。自己ＰＲ文・履歴書・エントリーシートの作成に取り組み、面接・ディスカッションに役立つ口頭表現法を学ぶ。 |
| 日本語学入門 | 日本語についての具体的かつ身近な事例を取り上げながら、日本語学の基礎的事項を解説する。また、それぞれのトピックに関連したミニレポートを課し、知識と理解の定着をはかる。 |
| 日本文学概論 | 古典文学を中心に、いくつかの観点から日本の文学作品に触れて、文学について多角的に理解する。また、文学とは何かという問いに対して考え続け、受講者自身の文学の定義を見出すことを目指す。なお、授業時間外にも、特定の作品に目を通すことが必要である。 |
| 多文化理解入門 | 文芸文化学科の専門科目を学ぶ導入として、どのようなトピックや学問世界があるのかを知るための科目。文学や芸術を主な題材としながら、文化研究に関するさまざまなトピックを学び興味の幅を広げ、問題意識を育む。 |
| 多文化理解概論 | 『多文化理解入門』を土台とし、人間の豊かな想像力が生み出した多様な言語芸術、文化事象を概説するとともに、世界の文学、芸術を幅広く現代的な観点から研究・読解するための様々なアプローチを考えていく。国の枠を超えて、文学、芸術を、歴史学的、社会学的、哲学的、思想的に研究し、読解を試みるための枠組みを提供し、個々の研究への応用を考え、専門分野に対する理解の深化を促す。 |

| 科目名 | 概要 |
| --- | --- |
| 芸術文化概論 | 世界および日本の芸術思想について、古代から現代まで流れを追って系統的に学ぶ。 |
| 日本文化特講 | 近世（江戸時代）の知の集積たる随筆の読解を通して、日本文化の諸相を覗き込む。1回の授業につき基本的に1作品を取り上げ、解説し、その後、グループワークで1～2篇を読み解き、分析する。辞書の助けを借りて、それぞれに特徴のある古い文体を紐解きながら、様々な経歴・立場・興味を持つ先人の思考に触れる。 |
| 文芸文化ゼミⅠ | 1年次の『基礎演習』を踏まえ、3年次の『文芸文化テーマ研究ゼミ』、4年次の『卒業研究』へとつなげるための土台を形成するゼミナール科目（必修科目）のひとつである。「人文科学の実践的研究を体験し、学びに関心を持つ」、「人文科学の基本的な研究方法を学ぶ」、「自らの課題を設定し探究する」ことが求められている。 |
| 文芸文化ゼミⅡ | 1年次「基礎演習」、2年次前期「文芸文化ゼミⅠ」における学びの積み重ねを踏まえ、調査・研究（分析，考察）・発表（表現）の基礎を修得し、3年次の演習科目（「文芸文化テーマ研究ゼミ」）と4年次に履修する「卒業研究」に向けて、専門的な研究ための基礎的な方法を学修する。 |
| 文芸文化テーマ研究ゼミ | １年次の「基礎演習」、2年次の「文芸文化テーマ研究ゼミⅠ、Ⅱ」を基盤に、自ら興味を持って取り組める研究課題を探求するとともに、専門研究に本格的に取り組み卒業研究（卒業論文）へとつなげる。<br>１、２年次までに修得したことば、芸術、文化に関する知識を土台とし、更に発展・深化させる。また、与えられた課題に対して共同で取り組むスキルや問題解決能力、プレゼンテーション力なども養う |
| 卒業研究 | 3年次の「文芸文化テーマ研究ゼミ」からの継続として、各自の興味関心に沿って設定した研究テーマについて調査、分析を重ねながら研究をを進め、卒業論文を完成させる。ゼミでの報告会を通して、更に各自の研究を深め最終発表では到達した研究成果を発信する。 |

主要科目　社会情報デザイン学部　社会情報デザイン学科

| 科目名 | 概要 |
| --- | --- |
| ビジネス入門 | 経営・マネジメントとは何か、会社とは何か、から始まり、経営学における基本的な用語や概念について幅広く学ぶ。<br>また、理解を深めるために、グループディスカッションなども行う。 |
| 現代社会論 | 本講義では、現代社会で生じている諸問題を知り、理解し、社会学などの観点から検討し、解決方法に関して自ら思考する枠組みを獲得することを目標とする。授業では毎回、新聞記事を使った時事問題解説を行う。 |
| 社会学概論 | 私たちは日々、他者たちとのあいだの関係性にふりまわされ、ときに喜び、またときに悩み、引き裂かれながら生きている。社会学とは、そうした私たち人間同士のあいだで働いている目には見えないが、確かに存在する関係性の力をめぐる学問である。本授業では、身近な事例を取り上げ、社会学的なものごとの見方を共感的に経験してもらいながら、その有効性と魅力を知るとともに、社会学の基本的な考え方と概念を学んでいく。 |
| 発想法入門 | 物事を考えたり、アイデアを生み出したりするうえで必要となる「情報収集」「問いの設定」「分析」について学び、修得することを目的とする。<br>前半は統一テーマによってこれらのプロセスについて学び、後半は自らの興味・関心があるテーマを選び、これらのプロセスを実践してもらう。 |
| 課題探究ワークショップⅠ | 「発想法入門」で学んだ内容を活かして、課題を見出し、それに対するアイデアや提案を導くプロセスをグループワークにより実践する。 |
| 社会情報リテラシー | 私たちの便利な社会を支えているITの活用例として、オリジナルゲーム制作を通してシステムの企画・設計やアルゴリズムの組み立て、プログラミングの基礎を学ぶとともに、その紹介動画の制作を通して動画制作・編集の基礎スキルを身につける。 |
| 調査・統計リテラシー | 社会調査における統計調査法について、調査設計からデータ分析に至る一連の過程を修得することを目的としている。内容は大きく２つにわかれており、前半（第1回～第7回）は、調査法に関する内容について学修する。後半（第8回～第14回）は、データ解析の基礎知識に関する内容について、Excelを用いた演習を通して学修する。 |

| 科目名 | 概要 |
| --- | --- |
| 経営戦略論 | 経営戦略における基本的な考え方、重要な理論やフレームワークについて学修すると共に、フレームワークを用いたグループワークを行う。 |
| 現代家族論 | 家族と家族関係の特徴を社会学の分析視角から把握し、考察する。家族の定義、家族の分析方法について基礎概念を学修した上で、家族形態の変化、結婚による家族形成と家族の発達、家族の内部構造（役割構造、勢力構造、情緒構造）とその変化、家族機能（子どもの社会化、老親扶養）とその変化について、社会調査データを用いて実証的に読み解く。 |
| データの整理・視覚化 | 現実的な課題の解決案を，データに基づいて探求するための考え方と技術の基礎を習得する。<br>データ分析の有効性と留意点を踏まえた上で，自らデータを構成し，そこから豊かな知見を適切に導く知識を実践的に学ぶ。 |
| Webコーディング | ホームページ作成に特化したアプリケーションを利用することなく、テキストエディタを使って、見やすく使いやすいWebページの作成ができることを目指す。また、コンピュータが自分の意図しない表示をしたときに、粘り強く自分で原因を探って修正する姿勢を身につけ、独力でWebページへの表現ができるようになること目指す。 |
| メディア文化論 | 実際に映像作品（マンガ・アニメーション含む）やポップカルチャーを通じて、メディア文化に関するリテラシーを高め理解力を養う。<br>視点を変え分析することで、文化の産物がどのように生み出されて受け入れられていくかを把握し、特徴や可能性を探求していく。 |
| 演習Ⅰ・Ⅱ | 教員のいずれかのゼミに所属し，各自の関心・興味に応じて、どのようなテーマを卒業研究で取り上げるかを検討する。専門の授業で学んだことを参考にしながら、ゼミでのプレゼンテーションやディスカッションを通して、研究の背景や目的を明確にしたうえで、研究を進めるうえで必要となる知識や技術を身に付ける。 |
| 卒業研究 | 各自が設定したテーマについて、研究計画に基づいて卒業研究を遂行し、論文としてまとめる。 |